

## 医学研究科

学生 の 確 保 (人)	年 次	定 員	志 願 者		受 験 者		合 格 者	入 学 者	
			学 内	学 外	学 内	学 外		学 内	学 外
1 年 次	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
3 年 次 編 入 学	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
学 位 授 与 数 (人)	博 士 課 程 修 了				論 文 博 士		博 士 課 程 修 士		
	修 了 年 次 定 員		修 了 者 数		授 与 数		授 与 数		
	38 (43)		47 (63)		— (—)		— (—)		
学 生 の 研 究 活 動 (件)	論 文 ・ 著 書 発 表 数		学 会 発 表 数			受 賞 ・ 表 彰 等			
	109 (129)		107 (243)			2 (5)			
学 生 の 進 路 (人)		教 員	企 業	公 務 員	研 究 員 (学 術 振 興 会)	そ の 他			
	修 了 者	9 (2)	5 (4)	3 (5)	9 (15)	21 (37)			
	退 学 者	— (1)	— (—)	— (—)	2 (4)	1 (2)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・（ ）は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

### 1 医学研究科の活動

- (1) 優秀論文の顕彰を行った。学位論文の中から、3件の優秀論文賞を選定し、教員会議の席上で、賞状と記念品を贈呈した。また、博士課程長による表彰に推薦した。
- (2) 学則第70条第3項ただし書きの適用を積極的に推進し、1名の学生を早期修了させた。
- (3) 人間総合科学研究科の医学系5専攻と協力して、教育研究経費の重点配分を行い、研究環境の整備を推進した。特に、医学学群棟の形態実習室(321室)の整備を行い、大学院教育の効率化を図った。また、昨年に引き続き医学系学系棟の大学院生オフィスの整備を行い、学生の居住環境の改善に努めた。
- (4) 人間総合科学研究科と協力して、医学系の共通実験室の老朽化した備品の整備に努めた。

### 2 教員の教育業績評価の状況

昨年に引き続き、研究科の改組の伴う教員組織の整備のために、新任の教員や本研究科を担当していない教員のうち、本研究科で十分な業績を持つと評価された教員を「人間総合科学研究科」の設置審議会に諮り、医学系の教員の大学院担当資格の見直しを行った。教授はもとより、助教授・講師の中からも、研究指導( )認定を受ける者が複数輩出し、本研究科の若手教員の質の高い事が理解された。また、3年次の始めに、複数の教員による学位論文の中間評価を行い、研究指導の多角的な検証を行ってきた。

### 3 自己評価と課題

本研究科に在籍する学生の研究発表はたいへん活発であり、過去数年間にCELLやScience誌など、国際的な一流誌への論文発表が相次いでいる。また、医学地区では、ブレインサイエンスセミナーや分子生命科学セミナー、免疫学セミナーなど、本研究科の学生も自由に参加できるセミナー・講演会が、学内外から新進気鋭の講師陣を招いて毎週のように実施されており、新しい知識を得るための環境は整備されつつある。さらに、過去数年間に、遺伝子構造解析室や共通実験室の整備が進み、本研究科の学生が最新鋭の機器を駆使して先端生命科学研究を実施できる体制が形成されている。

一方、本研究科の学生が研究活動を実施する医学学系棟などの実験室は、一様に狭隘であり、また、老朽化が進んでいる。医学研究科の学生のための研究スペースの確保は重要な課題であり、引き続き、研究室の有効利用に努める必要がある。また、人間総合科学研究科と協力して、総合研究棟D棟の建設・整備を進めることも次年度の課題である。さらに、本学のめざす「研究大学」の実現に向けて、本研究科の学生に、先端研究への志向性と大学院研究の重要性を積極的に啓蒙して行く必要がある。